

剣道未経験者の保護者へのアンケート

2024.11.17

Kendo Jidai International

本調査の目的

- 全日本剣道連盟によると、人口減少、スポーツの多様化を背景として、少年剣道の競技人口も減少の一途を辿っている。(令和2年3月17日『全日本剣道連盟《基本計画》次世代への継承に向けて』より)
- 剣道未経験者の保護者を対象に「剣道を習わせた理由」や「やってみてよかったこと」「戸惑ったこと」を調査することで、どのような点が未経験者にとって剣道の魅力で、どういった点に難しさや戸惑いを感じているかを分析。
- 調査結果は雑誌『剣道時代』、インターネットメディア『剣道時代インターナショナル』で記事化し、それぞれの読者(指導者や保護者)に届け、普及活動に役立ててもらう。
- 記事末尾にQRコードで記事の感想や要望を記入するアンケートへのリンクを設置し、次回調査にも活用予定。

アンケート設問

- **ご回答者の方に関して(必須回答)**
選択形式(お父さん / お母さん / その他)
- **剣道のご経験に関して(必須回答)**
選択形式(未経験 / 未経験だったが、子どもと一緒に始めた)
- **ご回答者の年代(任意回答)**
- **お子さんが剣道を始めた年代(必須回答)**
- **お住まいの地域(任意回答)**
- **お子さんが剣道を習うことになったきっかけ(必須回答)**
- **剣道を習ってみて感じたこと(必須回答)**
- **他の方に剣道を習い事として勧めるかどうか(必須回答)**
- **一つ前の設問の回答の理由(任意回答)**
- **今後、剣道に期待すること(任意回答)**
- **その他、自由記入欄(任意回答)**

調査と分析方法

- 調査方法

Googleフォームを作成し、Kendo Jidai InternationalのFacebook、Instagramアカウントで回答を募集。関東、関西、北海道地域の指導者の先生にお願いして、アンケートのURL共有を依頼。

- 分析方法

- ①回答者属性

Google フォームで集計したデータを使用。

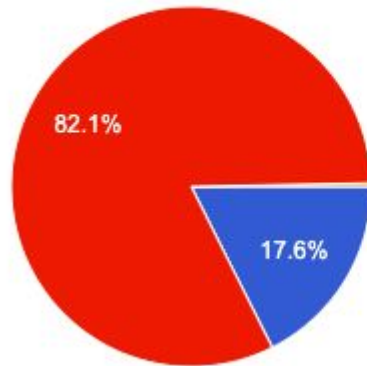
- ②自由回答

テキストマイニング分析を実施(株式会社ユーザーローカルが提供するAIテキストマイニングサービス『[User Local](#)』と[ChatGPT](#)を使用)。

回答者の属性

回答者の82%はお母さん。30-40代が約83%を占める。

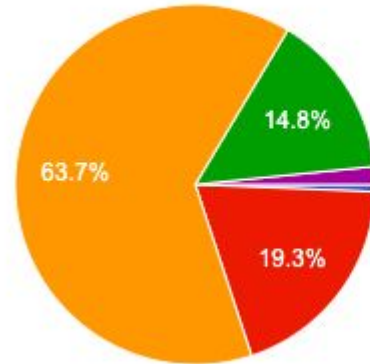
Q:ご回答者の方に関して



N=313

● お父さん
● お母さん
● 祖母

Q:ご回答者の年代

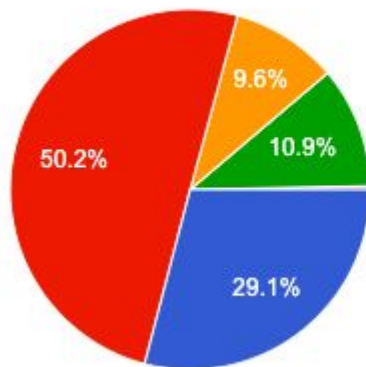


N=313

● 30歳以下
● 31歳～40歳
● 41歳～50歳
● 51歳～60歳
● 60歳以上

小学校低学年以下で剣道を始めた家庭が約 80%を占める
特筆すべき点は、子どもと一緒に ご自身も剣道を始めている方が約 11%いること

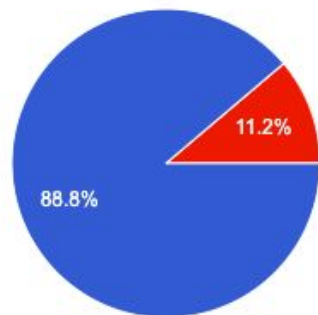
Q:お子さんが剣道を始めた年代



N=313

- 小学生未満
- 小学校低学年 (1～3年生)
- 小学校高学年 (4～6年生)
- 中学生
- 高校生

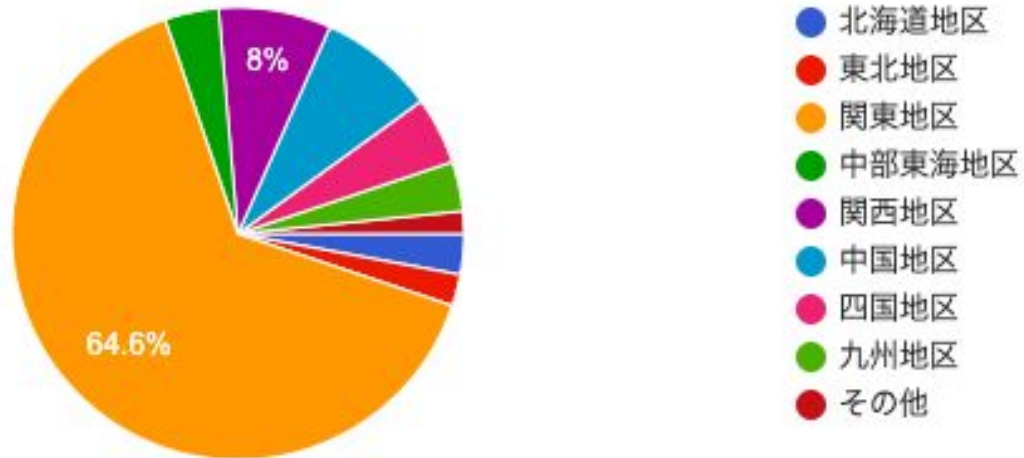
Q:ご回答者の剣道経験



- 未経験
- 未経験だったが、子どもと一緒に始めた

N=313

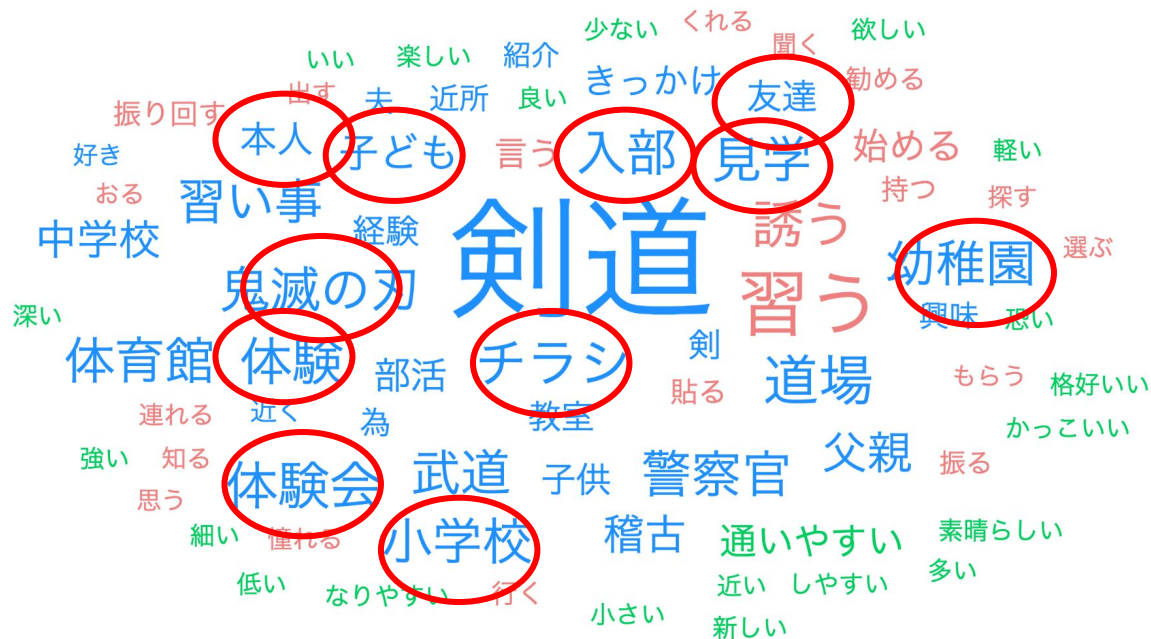
回答者の居住地域は約 65%が関東、約 8%が関西
一部、海外からの回答もあった



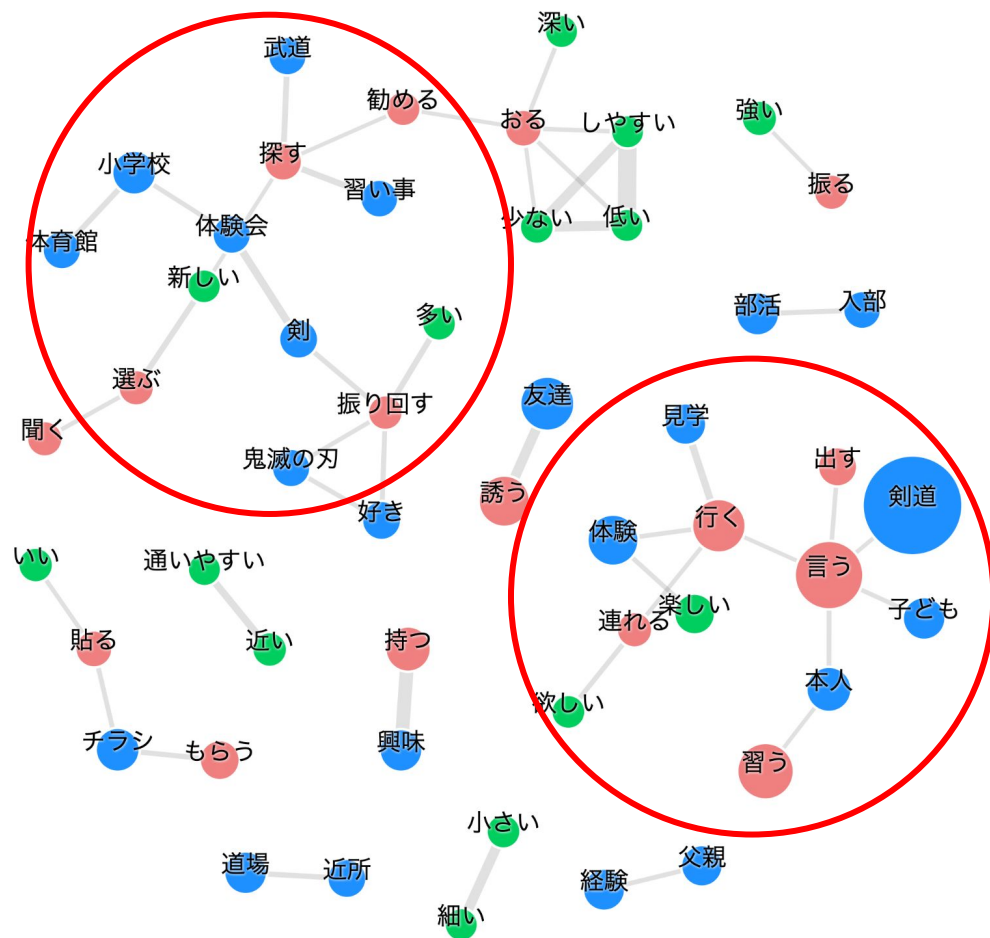
N=313

お子さんが剣道を習うことになったきっかけ

「体験会」「体験」「チラシ」など、実際に 体験してもらう手法が効果を発揮 している。「小学校」「部活」、「鬼滅の刃」など アニメや漫画の影響も無視できない。SNSはゼロ。回答の全体の中で、ホームページなどインターネットきっかけでの入会は 1件のみだった。



※出現スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示。
青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞



文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図。出現数が多い語ほど大きい。
共起の程度は強い方から順に太い実線 > 細い実線 > 破線 で描画。

ChatGPTによる「きっかけ」の分類

- **本人の興味・希望**

子供自身がやりたいと言い出した(例:「本人が入部を希望した」「剣道を見て興味を持った」)。アニメや漫画の影響(例:「鬼滅の刃」「ワンピースのゾロ」)。

- **家族の影響**

父親や祖父が剣道経験者(例:「父親が剣道をしていた」「旦那が剣道家」)。

- **友人・知人の紹介**

友人からの誘い(例:「友達がやっていた」「保育園の友達に誘われた」)。知人や指導者からの勧め(例:「ママ友の誘い」)。

- **学校や地域のイベント**

学校や保育園で配布されたチラシや体験会(例:「学校からのチラシ」「幼稚園の体験会」)。地域の剣道クラブや体育館での活動(例:「体育館でのデモを見て」)。

- **親の考え・意向**

子供に武道を経験させたいという親の希望(例:「武道を経験させたかった」「体力作りのため」)。子供の性格や成長を考慮した選択(例:「心を強くしたい」「姿勢を良くするため」)。

- **職業や将来の夢の影響**

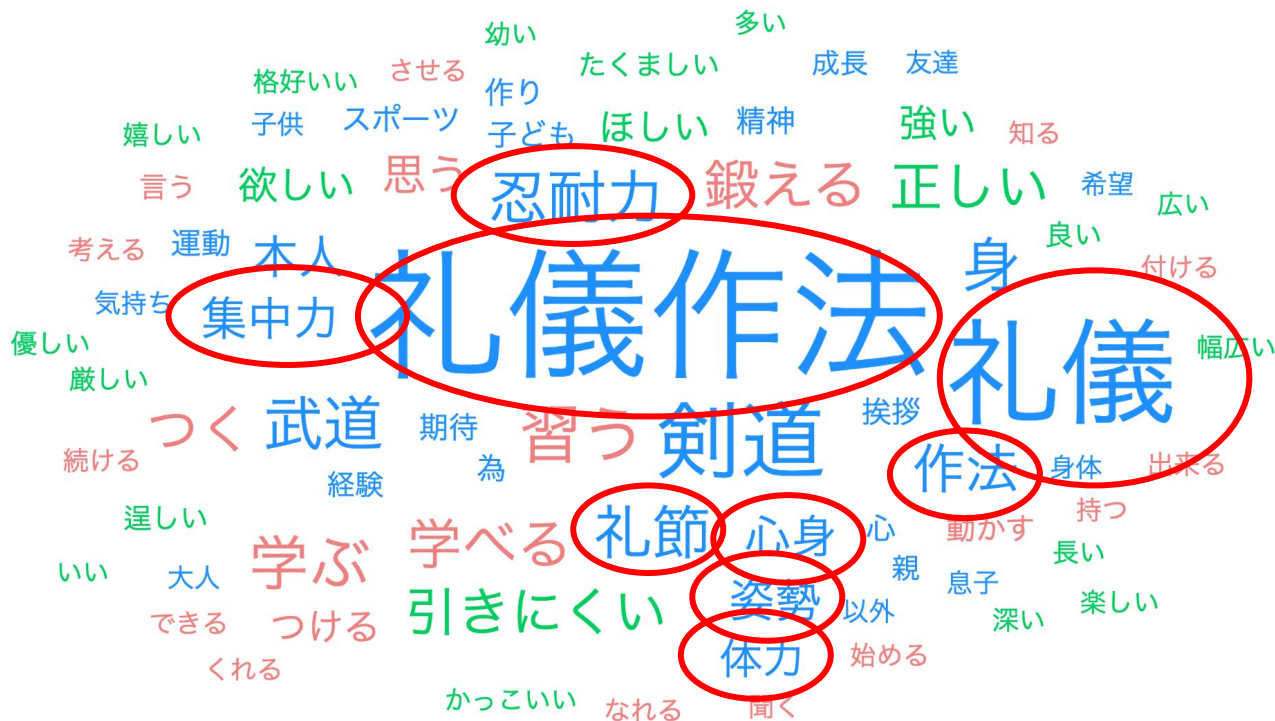
警察官や消防士になりたい夢(例:「警察官になるため」「消防官に勧められて」)。

- **その他の要因**

費用や安全性の観点(例:「月謝が安かった」「怪我が少ないと思った」)。偶然の出会い(例:「近くに道場があった」「たまたまポスターを見て」)。

剣道に期待していたこと

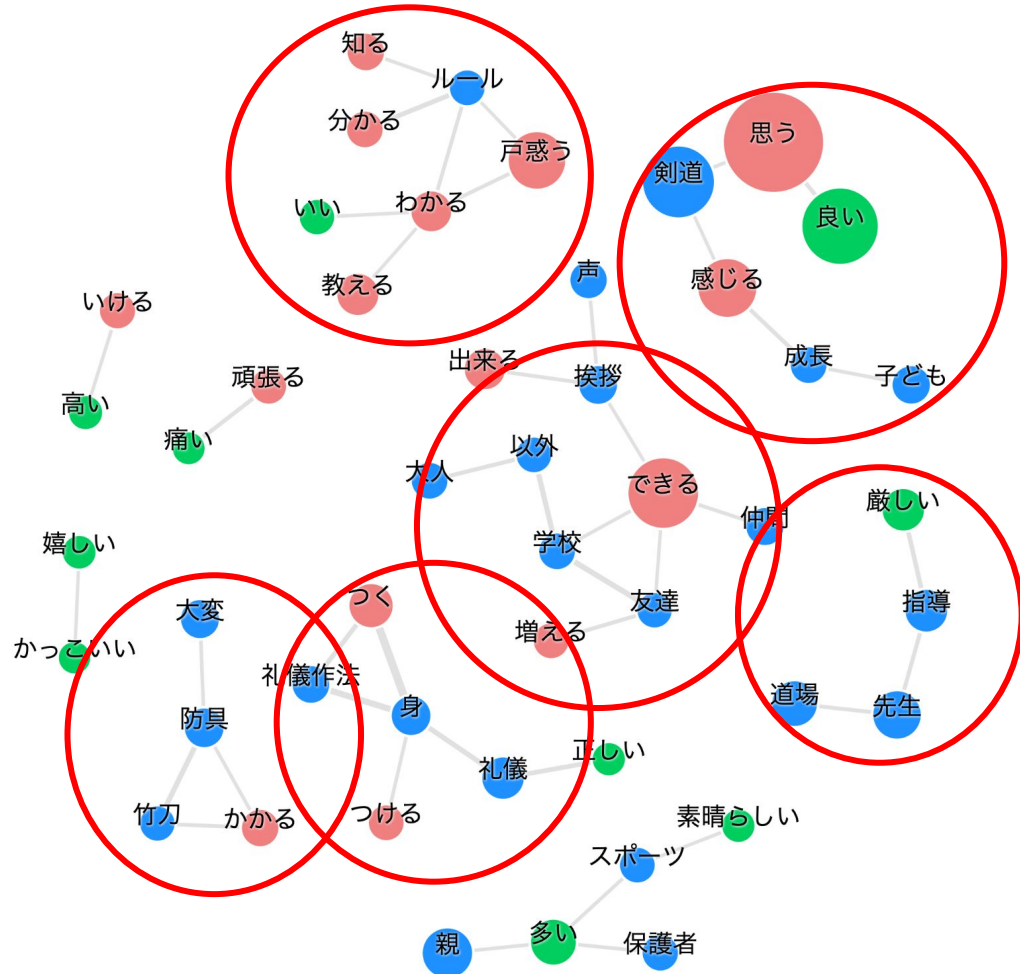
圧倒的に礼儀作法を身につけることを期待している 声が多かった。
「集中力」や「忍耐力」のアップ、「姿勢」がよくなること、
「体力」向上も期待されている。



回答の傾向

- ・**礼儀作法と精神面の鍛錬**：剣道は「礼節を重んじる武道」というイメージが強く、多くの親が教育的な効果を期待している。
- ・**身体的な成長の期待**：特に体力向上や姿勢改善を求める親が目立つ。
- ・**文化的な要素の重視**：日本の伝統や武道文化に触れさせたいという回答も一定数あった。

習ってみて良かったこと・戸惑ったこと



文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図。出現数が多い語ほど大きい。
共起の程度は強い方から順に太い実線 > 細い実線 > 破線 で描画。

ポジティブな要素

- **礼儀作法の習得** : 挨拶、礼儀、姿勢が良くなる。子どもたちが他者への感謝を学ぶ。
- **精神力と忍耐力の向上** : 厳しい稽古を通じて精神的に強くなる。負けん気が育まれ、自己肯定感が向上。
- **コミュニティ形成** : 年齢や学校を超えた友人ができる。子ども同士や保護者間で絆が深まる。
- **体力・健康の向上** : 運動習慣がつき、体力が増強。病気をしにくくなったという報告も。
- **思考力や集中力が向上** : 目標を設定し、それを達成する努力を学ぶ。
- **日本文化としての魅力** : 日本文化や歴史に触れる機会。技術や勝敗以上に精神的な成長を重視。

ネガティブな要素

- **親の負担** : サポート業務(送り迎え、試合係など)が多く、時間的・体力的な負担が大きい。防具や竹刀の費用が高額で、金銭的な負担が重い。
- **指導や慣習への戸惑い** : 昭和的な指導スタイルやパワハラ的行為への批判。暗黙のルールやしきたりが初心者には難しい。
- **競技面での課題** : 試合や審判の基準を曖昧に感じている。部門分けが不十分で、初心者が不利になる場合がある。
- **コミュニケーションの課題** : 保護者間の上下関係や人間関係にストレスを感じる。道場や剣友会内での派閥や指導方針の違いに戸惑う。

課題点

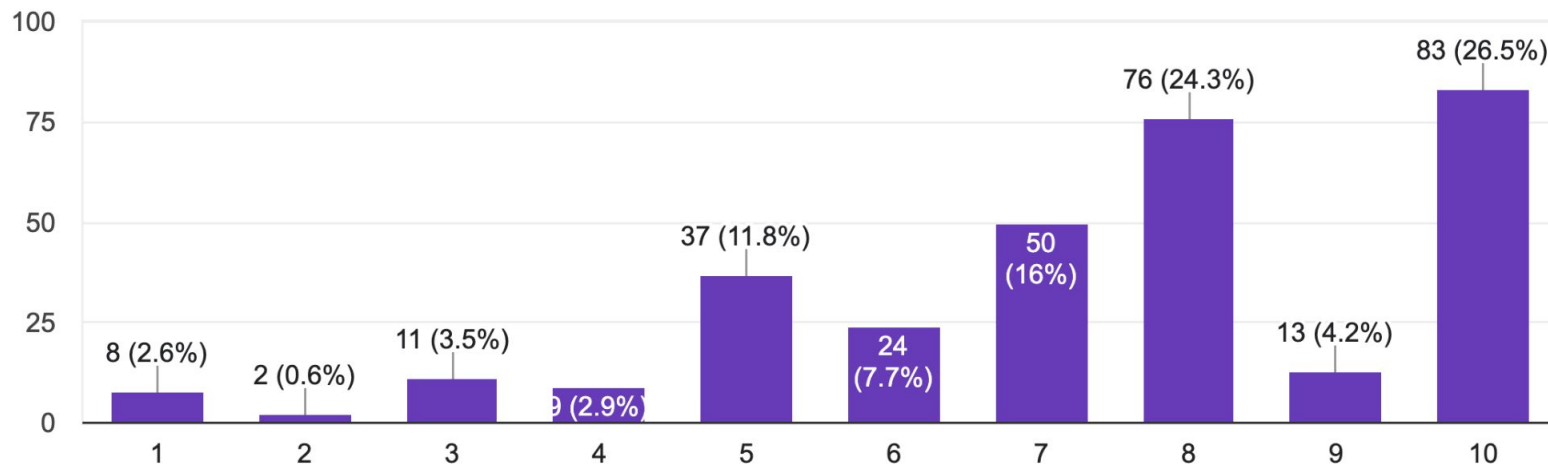
- **初心者へのサポート** : 道具の扱い方や基本的なルールに関する教育が必要。初心者がなじみやすい環境づくりが課題。
- **指導スタイルの改善** : 子どもに合った柔軟でモチベーションを高める指導方法を採用。礼儀や伝統を守りつつ、現代的な教育とのバランスを模索。
- **剣道文化の魅力拡大** : 武道の精神性や教育的価値を広く発信。初心者や未経験者にも分かりやすい情報提供を強化。

剣道を第三者に勧めるか

55%が剣道を勧めると回答、中立は約 35%、勧めない人が約 10%

他の方に剣道を習い事として勧めますか？

313 件の回答



評価点の分析

高評価(8～10点):

人格形成や親子関係への好影響を評価する声が多い。

中間評価(5～7点):

親や子どもの負担を理由に慎重な意見。

低評価(1～4点):

指導方法、経済的負担、子どもに合う合わないを理由に否定的。

肯定的な理由

礼儀作法と人格形成：

礼儀、集中力、忍耐力、社会性を身につけるという意見が多く見られる。
特に「礼に始まり礼に終わる」の文化が評価されている。

身体的・精神的成長：

精神力や体力の向上、心身の鍛錬が挙げられる。
長く続けられるスポーツである点も強調。

親子の絆：

親子で取り組める点が、家族の絆を深めるとされる。

伝統的価値：

日本文化や伝統を学べる貴重な機会であると強調される。

否定的な理由

保護者の経済的負担：

初期投資、防具や道具の費用が高額である点が指摘される。

保護者の時間・精神的負担：

試合の送迎や親の協力が求められる点が課題として挙げられる。

指導への違和感：

厳しい稽古に対する覚悟が必要であり、全員に合うわけではないという意見。
古い指導方法や価値観が一部で批判されている。

剣道に期待すること

自由記述で寄せられた「剣道に期待すること」をChatGPTで分析

1. 剣道人口の増加

多くの回答で「剣道人口を増やしてほしい」という希望が挙がった。
特に、以下の点が強調されている：

子どもの剣道人口増加：

少子化の影響で部活動や道場の存続が難しくなっている地域があり、剣道を始める子どもを増やしたいという意見が多い。

大人や初心者向け環境の整備：

中高年の初心者が気軽に始められる場所の提供や、未経験者でも入りやすい環境が求められている。

2. 剣道の認知度向上

剣道をもっと広く認知させたい、という声が多数あがった。

メディア露出：

地上波やYouTubeなどで剣道を取り上げ、世界大会や全日本選手権などを放送してほしい。

オリンピック種目化の賛否：

オリンピック種目化に関する意見も多くみられた。オリンピック競技になることで注目を集めるという期待と、武道としての精神が薄れる懸念が混在する。

初心者向けの取り組み：

ショッピングモールやイベント会場で剣道体験を提供し、敷居を低くする案が出ています。

3. 武道精神と伝統の保持

剣道が武道としての本質を失わないでほしい、という声が強調されている：

礼儀と精神性の重視：

礼に始まり礼に終わる剣道の精神を大切にしてほしいという意見が多い。

スポーツ化への懸念：

他の武道（柔道や空手）のようにスポーツ化することへの警戒があり、「剣道は武道としての道を貫いてほしい」との声が多くあった。

4. 保護者の負担軽減

親の送迎や費用負担、運営の関与などが大きいという指摘があり、これを軽減する仕組みへの期待が見られた。

費用の問題：

防具や昇段審査費用の負担軽減。

時間的な負担：

試合の運営や練習のサポートを効率化してほしいという意見が挙がっている。

5. 指導方法や運営の改革

伝統を守りながらも、時代に合わせた柔軟な対応が求められている。

古い体質の改善：

指導法や運営の硬直化を柔軟に変えてほしい。

子どもファースト：

子どもたちが楽しめる環境づくりが期待されている。